

秋を楽しむ

一昨日、乗鞍では平年より 10 日遅く初霜が観測されました。台風の接近がなく、比較的安定した好天の日が多かった 9 月が終わり、朝晩は肌寒くなってまいりました。クールビズが終わった今日からは、私もネクタイを締め、気持ちも一層引き締めて、年度仕上げの下半期に臨みたいと思います。

このほど全国の 7 月 1 日時点の基準地価が発表されました。昨日の朝刊等の報道でご覧になられた方も多いかと思いますが、奥飛騨温泉郷平湯が全国の商業地の中で、前年比較で最大の下落率だったと発表されました。基準価格とは不動産鑑定士が周辺の取引事例などから算定するものです。基準日の 7 月 1 日はコロナの影響でインバウンドはもとより、国内観光も自粛中で先行きが全く見通せない時期であったことも影響しているかと思いますが、こうしたニュースが観光のイメージにも悪影響を与えないか懸念したところです。

コロナは引き続き予断を許さない状況が続いていますが、全国的には新規感染者の発生数が比較的落ち着きを見せているため、イベントの人数緩和や国の GO TO キャンペーンは拡大しました。

9 月の四連休では、奥飛騨温泉郷や古い町並が久しぶりにたくさんの観光客で賑わいました。市観光課の調べでは、連休中、市内の宿泊施設はほぼ満室となり、高山の東の玄関口である安房トンネル、西の玄関口である飛騨清見インターから高山に入った車両台数はコロナ前の昨年 9 月の連休と比較しても約 6 割も多く、コロナ発生後では最多の入り込みとなり、旅行需要の大きさを実感するとともに多くの方に高山を行先(ディステーション)に選んでいただいたことに希望の光を見た思いでありました。他方、JR 高山線や高速バスの利用は、同じ昨年の連休との比較で約半分の利用にとどまっており、密を避ける意識がマイカーでの旅行を促進させていることが顕在化したようです。

基準価格が落ち込んだ奥飛騨温泉郷は、密とは無縁の雄大な大自然、豊富な湯量と日本一の露天風呂数を誇る温泉があり、マイカーでのアクセスが便利です。全国で新しい生活様式の実践が始まっている今こそ、感染防止対策も徹底されている奥飛騨温泉郷は安心して訪れ、楽しんでいただける温泉地であることを地元事業者とともに発信していきたいと思います。

密を意識して避けられる傾向にあるバスやタクシー等の市内交通事業者は客数、売り上げが減少して苦境にあります。

市と事業者で組織する高山市公共交通活性化協議会では、お客様に安心してご利用いただけるよう「高山市公共交通スタンダード」を策定されました。このガイドラインでは消毒清掃や換気、飛沫防止のビニールシートやアクリル等の車内設置など事業者として取り組む内容をお客様に明示するとともに体調の悪いお客様にはご利用は遠慮願うなど、誰もが安心してご利用いただくための環境整備を目指し、行動されています。

高山市公共交通活性化協議会はこのほど「公共交通応援プレミアム利用券」の販売を開始しました。これは市内のバスやタクシー等で利用できる 1500 円の利用券を 1000 円で高山市民対象に販売し、市民の皆さまに公共交通機関を応援、利用していただくとう始めたものです。高齢者や障がいのある方への先行販売をしていましたが、本日から全世帯を対象に販売が開始されますので、多くの市民の皆さまに応援、お出かけいただけたら幸いです。(購入申込書、詳しい内容は9月15日号の広報、市HPをご参照ください)

今年は秋の高山祭の中止になったほか、市内各地の秋祭りも縮小、中止がほとんどで一抔の寂しさを感じていますが、高山はこれから秋の深まりとともに紅葉が山から里へと移ろう一年で最も美しい季節を迎えます。

市民の皆さまには市内各所にご家族やご友人と是非お出かけいただき、豊かな自然や旬のグルメなど楽しんでいただけたらと思います。

朝晩は日に日に寒くなってまいります。風邪などひかれぬようご自愛ください。

令和2年10月1日

高山市長 國島芳明